

## 「令和4年度漂着ごみ組成調査」(石川県「海辺の漂着物調査」)への 継続参画

団体名●池田ゼミナール(4年)／代表者名●池田幸應(人間科学部スポーツ学科・教授)

### はじめに

現在、世界中で海洋ごみ問題が深刻化しており、我が国においても環境省や海洋関連の各機関、団体等が海洋ごみ、海岸環境等についての施策を実施してきている。石川県でも生活環境部環境部資源循環推進課を中心に県事業として「海辺の漂着物調査」を継続実施(2020年度からは、環境省「海岸漂着物等地域対策推進事業」としても拡大)している。

これまで、池田ゼミナールは羽咋市、羽咋郡市広域圏事務組合、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立能登青少年交流の家、クリーン・ビーチいしかわ実行委員会と共に協力団体として、正式に本事業に継続的に連携協働してきている。本年度は、9名のゼミナール4年次学生メンバーが参画した。

### 活動内容

本調査は、漂着ごみを回収し、その組成や存在量を調査・記録することにより、本県の漂着ごみの実態把握に資する基礎情報の取得を目的として、本年度10月27日(木)、石川県羽咋市「柴垣海岸」(漂着ごみの回収作業)及び「クリンクルはくい」(漂着ごみの分類作業)で実施された。

調査は、午前中に柴垣海岸の昨年度とほぼ同じ場所での定点調査地点において、調査説明について確認後、対象とする漂着ごみを回収した。また、昨年同様、漂着物(ごみ)調査以外にも、石川県水産総合センター生産部志賀事業所による稚魚放流(クロダイ稚魚約1,000匹)、栽培漁業についてのミニ講話が現地で行われた。午後からは、羽咋市のごみ回収処分施設「クリンクルはくい」に移動し、回収した漂着ごみを環境省ガイドライン「漂着ごみの分類表」および「言語表記等調査のデータシート」に基づき分類・計測し、計測結果をデータシートに記入した。

ゼミナール学生全員が昨年度においても本事業に参加しており、他の調査スタッフメンバーとも面識があり、調査手法についても理解をしているため、効率よく調査を実施することができたものと判断される。



漂着ごみ回収作業の様子

なお、漂着ごみの分類作業については、昨年同様、株式会社 環境公害研究センター職員の指導の下にゼミナール学生が中心となって実施した。

### 成果、結果の考察

調査結果は、昨年同様、個数、容積、重量のいずれもプラスチックが最多であった。参加した学生たちは、この活動を通して単なる漂着ごみの回収、調査活動に留まらず、海岸環境の状態や海洋ごみの地球環境への重大な影響についても実践的に学ぶ機会を得たことにより、次世代人材育成も含め環境教育推進にも大きく役立っているものと考えられる。

### 今後の課題、展望

海岸の漂着ごみは、海ごみの極一部であり、今後も活動の継続、拡大が必要である。そのためにも「クリーン・ビーチいしかわ」や「海ごみゼロ」等の事業と連動し、より多くの地域環境団体や他大学、専門学校、そして地元の小、中、高校生の協働参画が望まれる。今回参加した学生は、全員が4年生であるため、今後、上記の団体等にも働きかけ、その参加を促進する予定であり、またゼミナール学生たちについても、可能な範囲で社会人として海の環境保全活動に関わってくれることを期待したい。